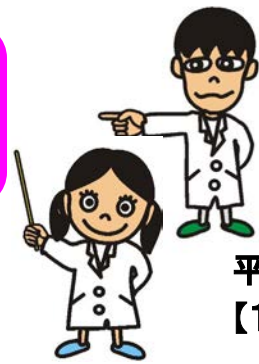






# 感染症に気をつけよう！





平成26年  
【11月号】


## 横浜市内の感染症 流行状況


感染症	流行状況		説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
腸管出血性 大腸菌感染症	 流行	 横ばい	家族内感染や重症例(HUS)も報告されています。 <u>食品の加熱・洗浄、手洗い等を十分に</u> 行い予防しましょう。	【9月号】
インフルエンザ*	 散発	 横ばい	学校での集団発生など、 <u>市内でも報告が出始めて</u> います。下の解説を参考にして、今から流行に備えましょう。	【2月号】

## 今、気をつけたい感染症 インフルエンザ


 すでに、先月10月の中旬には市内の小中学校で、今シーズン初めての学級閉鎖がありました。市内医療機関から患者の報告も出始めています。


 インフルエンザワクチンの接種がまだの場合は、早目に接種しましょう。

 ワクチンはインフルエンザの予防方法として大切です。発症の可能性を減らし、発症しても重症化を防ぐ効果があります。

 ワクチンの効果が期待できるのは、接種した2週間後から5ヶ月程度までとされています。かかりつけ医に相談して、早目に受けましょう。



 また、手洗い・うがいをしっかりと行うことが、予防の基本です。普段から、栄養と睡眠を十分とって抵抗力を高めておきましょう。

 流行中は人混みを避け、もし症状が出たら、他の人にうつさないように、咳エチケットを守って早目に受診しましょう。

